

解答は、すべて答案用紙に記入して必ず提出してください。

2 級

第2予想

平成 26 年度
第138回 日商簿記試験対策
ラストスパート模試
問題用紙

(午後 1 時30分開始 制限時間 2 時間)



商 業 簿 記

第1問 (20点)

下記の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	売掛金	受取手形
未着品	未収金	未収手数料	不渡手形
建物	未払金	支払手形	買掛金
未払配当金	貸倒引当金	損益	委託販売
受託販売	資本金	資本準備金	利益準備金
別途積立金	繰越利益剰余金	受取手数料	受取配当金
売上	修繕費	手形売却損	貸倒損失

1. 平成26年6月27日に開催された株主総会で、以下のように繰越利益剰余金の処分が行われた。なお、当社の資本金は¥2,700,000であり、資本準備金¥360,000、利益準備金¥300,000がそれぞれ既に積み立てられている。
 配当金 ¥240,000 別途積立金 ¥120,000 利益準備金 会社法の定める必要額
2. 得意先石川商店に対して前期に償還請求をしていた不渡手形の額面¥210,000と償還請求費用¥6,900のうち、¥72,000を現金で回収したが、残額は回収の見込みがなく、貸倒れの処理をした。なお、貸倒引当金は¥105,000設定されている。
3. かねて販売と代金回収の委託を受けていた商品30個（売価@¥36,000）のうち、本日5個を販売し、代金は掛けとした。なお、当社は、販売価額の20%を販売手数料として受け取ることとなっており、販売のつど収益を計上する。
4. 株式会社鹿児島商会は、当期の決算を行った結果、¥1,860,000の損失を計上した。
5. 本日、かねてより商品販売の委託を受けている福井商店が取り組んだ荷為替手形¥195,000を取引銀行から呈示されたため、これを引き受け、貨物代表証券（売価¥270,000）を受け取った。なお、販売を委託された商品は、未だ到着していない。

第2問 (20点)

次の〔資料Ⅰ〕および〔資料Ⅱ〕にもとづいて、答案用紙の残高試算表を完成しなさい。

〔資料Ⅰ〕10月中の特殊仕訳帳の記入内容

(1) 当座預金出納帳

(借方)	(貸方)
売上欄合計 ¥ 49,500	仕入欄合計 ¥ 21,000
売掛金欄合計 ¥ 90,300	買掛金欄合計 ¥ 70,500
受取手形欄合計 ¥ 29,700	支払手形欄合計 ¥ 18,300
諸口欄内訳：	諸口欄内訳：
土地 ¥147,900	給料 ¥ 63,300
売買目的有価証券 ¥ 4,800	借入金 ¥ 36,000
有価証券売却益 ¥ 900	支払利息 ¥ 600

(2) 仕入帳

当座預金欄合計 ¥ 21,000
買掛金欄合計 ¥ 79,500
支払手形欄合計 ¥ 13,500

(3) 売上帳

当座預金欄合計 ¥ 49,500
売掛金欄合計 ¥115,200
受取手形欄合計 ¥ 28,500

(4) 支払手形記入帳

仕入欄合計 ¥ 13,500
買掛金欄合計 ¥ 10,500

(5) 受取手形記入帳

売上欄合計 ¥ 28,500
売掛金欄合計 ¥ 9,000

〔資料Ⅱ〕10月中の普通仕訳帳の記入内容

普通仕訳帳

日	付	摘 要	元丁	借 方	貸 方	
10	8	諸 口 (土 地)	省		150,000	
		(当座預金)			147,900	
		(固定資産売却損)			2,100	
	11	諸 口 (受取手形)	略		7,500	
		(当座預金)			7,200	
		(手形売却損)			300	
	17	(買掛金)		8,100		
		(売掛金)			8,100	
	25	(給料) 諸 口		70,200		
		(所得税預り金)			6,900	
		(当座預金)			63,300	

第3問 (20点)

下記の資料Ⅰ～資料Ⅲにもとづいて、次の各問に答えなさい。なお、会計期間は1年、決算日は3月31日である。また、本店から支店への商品の発送にあたっては、毎期、原価に20%の利益を加算した金額を振替価格としている。

- (1) 答案用紙の本支店合併後の損益計算書および貸借対照表を作成しなさい。
- (2) 本店勘定の次期繰越額を求めなさい。

資料Ⅰ 本店および支店の決算整理前残高試算表

借方	本店	支店	貸方	本店	支店
現金預金	108,960	40,590	買掛金	105,000	?
売掛金	126,000	54,000	借入金	180,000	36,000
売買目的有価証券	25,050	7,650	本店	—	?
繰越商品	70,500	18,990	貸倒引当金	450	240
支店	193,500	—	建物減価償却累計額	72,000	22,500
建物	300,000	150,000	繰延内部利益	?	—
仕入	495,000	?	資本金	360,000	—
本店より仕入	—	?	利益準備金	19,500	—
営業費	85,590	39,150	繰越利益剰余金	36,000	—
支払利息	4,050	810	売上	?	288,000
			支店へ売上	69,000	—
	1,408,650	536,910		1,408,650	536,910

資料Ⅱ 未達事項

1. 支店が本店へ送金した現金¥21,000が本店に未達である。
2. 本店が支店へ発送した商品¥4,200が支店に未達である。
3. 本店が支店の売掛金¥9,000を回収したが、その通知が支店に未達である。
4. 支店が本店の買掛金¥12,000を決済したが、その通知が本店に未達である。
5. 本店が支店の営業費¥6,000を支払ったが、その通知が支店に未達である。

資料Ⅲ 決算整理事項

1. 売掛金の期末残高に対し、本支店とも2%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。
2. 売買目的有価証券の内訳は次のとおりである。

	A社株式		B社株式	
	帳簿価額	時価	帳簿価額	時価
本店	¥15,750	¥16,050	¥9,300	¥9,150
支店	¥4,500	¥4,800	¥3,150	¥2,940

3. 商品の期末棚卸高は次のとおりである。ただし、支店の期末棚卸高には未達分は含まれていない。
 本店の期末棚卸高 ¥77,400
 支店の期末棚卸高 ¥18,600 (このうち¥7,500は本店より仕入れた商品である。)
 なお、支店の期首棚卸高のうち¥9,000は本店より仕入れた商品である。
4. 本支店とも建物の減価償却を、耐用年数は30年、残存価額は取得原価の10%として、定額法により行う。
5. 営業費の前払額が、本店に¥300、支店に¥240ある。
6. 利息の未払額が、本店に¥1,350、支店に¥270ある。

第4問 (20点)

次に示す材料に関する取引にもとづいて、答案用紙の総勘定元帳の()内に適切な金額を記入しなさい。
なお、記帳は月末にまとめて行っている。

- 11月 2日 甲精機より主要材料 750,000円を掛仕入れした。
- 3日 乙化学より部品X 360,000円を掛仕入れした。
- 5日 製造指図書#7の製造向けに、主要材料 960,000円と部品X 300,000円を払い出した(予定消費価格を用いている)。
- 8日 丁電装より消耗品 42,000円を現金仕入れした。
- 12日 丙化工より部品Y 270,000円を掛仕入れした。
- 15日 製造指図書#8の製造向けに、部品Y 300,000円を払い出した(予定消費価格を用いている)。
- 20日 丁電装より消耗品 36,000円を掛仕入れした。
- 24日 甲精機より主要材料 855,000円を現金仕入れした。
- 25日 製造指図書#9の製造向けに、主要材料 750,000円を払い出した(予定消費価格を用いている)。
- 30日 消耗品の実地棚卸を行った結果、当月消費高は 66,000円であることが判明した。

第5問 (20点)

当製作所は製品Zを量産しており、パーシャル・プランの標準原価計算を採用している。次の資料にもとづき、製造間接費の当月標準配賦額の計算および差異分析を行いなさい。なお、差異分析では変動予算を用いて、予算差異、能率差異、操業度差異を計算すること。このとき、能率差異は変動費と固定費からなるものとして計算しなさい。

(資料)

1. 当月実際製造間接費 414,000円
 内訳： 変動費 144,000円
 固定費 270,000円
 2. 当月の実際直接作業時間は588時間であった。
 3. 当月生産データ
 月初仕掛品 66個 (進捗度50%)
 当月完成品 300個
 月末仕掛品 60個 (進捗度40%)
 4. 製品Zの1個当たりの標準直接作業時間は2時間である。
 5. 年間製造間接費予算 5,040,000円
 内訳：変動費 1,800,000円
 固定費 3,240,000円
 6. 年間の正常直接作業時間は7,200時間である。
- (注) 製造間接費は直接作業時間を基準として製品に標準配賦されている。